

差控へておく。(高橋俊乘)

心 理 學

シエームス著
今 田 憲譯

ホリアム、シエームスは心理學を定義して「心理學の定義は意識狀態そのものの記述及び説明と云ふのが一番よい」と云ふて居る如く、彼の心理學は具體的全意識狀態に注意を向ける點に其の特徴がある。其の心理學は機能的心理學であつて、ゲント風の構成的心理學に對立して居る。構成的心理學に於ては意識過程の構成、組織を明らかにせんとし、意識の分析して最も簡單な心的要素に分ち、複雑な意識過程は其の心的要素の結合であるとして説明せんとする。其の研究は具體的統一的意思を抽象的心的要素に分析する事から出發する。之に反して機能的心理學に於ては前者が分析的、解剖的に意識の組織を明らかにせんとするに對し、此は意識を統一的、具體的全體として研究し、其の機能を説明せんとする。シエームスは此の著の序に曰「余は、吾々の最も熟知つて居る一層具體的な心的方面から、後に抽象作用によつて自然に知るに到る所謂要素に進むのが、適當なる教授上の順序であると思ふ……………」反對に心の「構成單位」から心を「組立てる」順序は、説明の體裁がよいと云ふ特徴を有し、區分整然たる目次を與へ得るけれども屢々之等の利益を得んが爲に眞相と眞理とを犠牲に供することがある。」

又曰「吾々は意識の細分せられたる「要素」を死體解剖的に研究するよりも、出來る限り具體統一的に吾々に映するまゝの全意識狀態に注意を拂ふことによつて、實際のものつゝ生きた理解をなし得るを考ふるものである。細分せられたる要領の檢屍的研究は人爲的抽象的研究であつて、自然的事物の研究ではない。」と。彼の心理學の特徴はゲントのそれと比較することによつて一層明瞭にすることが出来る。ゲントは最も簡單なる心的要素として感覺と單純感情とを挙げ、其等が綜合し複雑なる具體的意識狀態なる過程を追ひ、其の法則を發見せんとして居るに對し、彼は意識狀態をそのまゝに具體的、綜合的に取扱はんとして居る。前者の抽象的分析的、構成的なるに對し、後者は具體的、綜合的、機能的である。前者の純科學者的なるに對し、後者は科學者的なるとともに天才的、藝術家的でもある。

前者の著述の組織的、體系的、秩序的なるに對し、後者は情熱的で、行文、引例の妙、趣味の豊富なる點に勝つて居る、シエームスが其の大著 *The Principles of Psychology* 二卷を公にしたのはゲントの大著 *Grundzüge* 三卷に遅れる事十六年即一千八百九十年であるが、その公にせられるや「一世驚倒し學界及一般社會は口を揃へて讚嘆を吝しなかつた。」しかしそのあまりに浩瀚なる事は一般讀者にとつて不便であつたために、一千八百九十二年、其を短縮して出版されたものが本譯書の原書 *Psychology, Brief Course*、である。此はゲントの *Grundriss* の出版に先立つ事四年である。既に我國にゲントの心理學は一般に廣く紹介せられて居るのに對し、シエームスの其は未だそれ

ほど一般に讀まれてゐない。此處に本書の生れた意味がある。原著の價値に就ては今更ら喋々を要しない。譯者の言をかりて云へば其の「最大の價値は著者の人性に對する透徹せる洞察と、生ける事實に對する忠實とにあると思はれる。本書出でて三十五年心理学は幾多の變化發達を見た。しかし人性は變らぬ。本書は心理学研究者にとつては斯學發達上看過すべからざるものであり、其は永遠に價値あるものであらう。譯者は大正十一年東大出身、目下神戸關西學院に教鞭をとりつつある心理學者である。此の定評のある名著を譯するに當つて、意味の正確を期すると共に、その情趣をも失はざらんを努力苦心せられた點に深き敬意を表したい。此の原著には既に福來氏の譯書、寺田氏の抄譯等があるけれども、自分が良譯書として本書を推奨する所以は、たゞに本書が最近の出版であること云ふ理由のみではない。因に本書は岩波書店刊行の心理学名著叢書の第一巻として發行されたものである。(岡道固)

(定價四圓貳拾錢。菊判五百六十七頁)

叢

書

國民生理學 研究會主催 第四回夏期講習會

講 習 題 目

『脈管系の解剖、組織、生理、衛生、疾病』

演 題 及 講 師

脈管系の生理

血清と法醫學

脈管系の疾病、衛生

淋巴管の組織及解剖

脈管系の組織及解剖

特 別 講 演

神經興奮傳導學說に就て

我國人口食糧問題解決の鍵

實驗及標本供覽

動脈血壓描記實驗

人體脈波曲線描記

人體血壓測定法

冠狀動脈灌流實驗

見 學 豫 定 地

動物脈管系標本供覽

京部帝國大學各學部

(天文臺、文學部陳列館、金相學教室、地質學教室、法醫學教室等)

御所御苑、二條離宮

市立宇多野結核治療所

松ヶ崎水道淨水地

京大教授 石川日出鶴丸

京大教授 小南又一郎

京大教授 飯 塚 直 彦

京大教授 木 原 卓 三 郎

醫學博士 笹 川 久 吾

京大教授 石 川 日 出 鶴 丸

醫學博士 近 藤 金 助

農學博士 近 藤 金 助

(笹川、巴陵兩學士擔當)

(同)

(同)

(同)

(曾我研究所長擔當)